

主要港でストライキ相次ぐ

■欧州港湾、混雑など影響懸念

欧州港湾でストライキが相次いでいる。ドイツではドイツ統一サービス産業労働組合 (Ver.di) が9月2日～4日に48時間ストライキを実施した。オランダでも4日に労働組合 FNV Havens がストライキを実施した。欧州では現在、気候変動に伴う河川の水位低下が問題となっており、内陸輸送に支障が生じ、港湾業務にも影響が出ている。ストライキの実施により、さらなる混乱が発生する可能性がある。

ドイツ統一サービス産業労働組合は、使用者側である ZDS との港湾労働者の賃金交渉において、ZDS の提示内容を不十分として、8月中旬に24時間ストライキを実施した。その後の労使交渉で事業者側から改善提案が行われたものの、組合側が最終的に拒否し、再びストライキを実施することになった。

オランダでは FNV Havens が全国ストライキを実施した。同組合は政府が計画している65億ユーロの社

会保障削減を直ちに撤回することを求めている。

一連のストライキによって、ハンブルク港やブレーマーハーフェン港、ヴィルヘルムスハーフェン港、ロッテルダム港など主要港におけるオペレーションに影響が出た。足元ではアジア側の悪天候に伴う港湾混雑などにより、アジアー欧州航路のスケジュール順守率も低迷している。さらに欧州域内の河川の水位低下により、内陸への輸送能力が減少している。今回のストライキと重なることで、港湾混雑がさらに悪化し、円滑な輸送に支障が生じることが懸念されている。